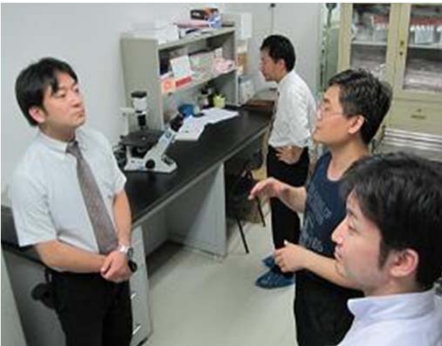


# JICA中国事務所ニュース

- ☆ 中国事務所ウェブサイト <http://www.jica.go.jp/china/office/index.html>
- ☆ ボランティア活動 <http://j.people.com.cn/99005/index.html>
- ☆ サーチナJICAページ <http://searchina.ne.jp/jica>

2012年9月号



## 目次

### ■ トピックス

- ◎ 日中韓 市民社会フォーラム ……2

### ■ ニュース

- ◎ 予防接種行政にまつわる現状と展望を共有  
～「日中免疫計画策略セミナー」を開催～ ……3
- ◎ 食品廃棄物の循環利用について議論  
～都市廃棄物循環利用セミナーを開催～ ……3
- ◎ 四川大地震で崩壊した山林の再生に挑む  
～森林植生復旧に関するシンポジウムを開催～ ……4
- ◎ 日本の競争政策・独禁法の概要を学ぶ  
～「独禁法立法及び執行プロジェクト」訪日研修実施～ ……4
- ◎ 介護関連企業とJICAボランティアの意見交換会 ……5
- ◎ 中国若手行政官35名が日本へ出発 ……5
- ◎ JICA医療分野帰国研修員同窓会による国際学術セミナー ……5
- ◎ 「日中農産品質安全における経験と教訓」に関する講演会 ……6
- ◎ 「スーパー夏祭り in 北京 2012」に参加 ……6

### ■ CHINA COOL

日中エコカー比較 ……6

### ■ 帰任者紹介

……6

## 独立行政法人国際協力機構 中華人民共和国事務所

北京市朝陽区東三環北路5号 北京発展大厦400号室

郵便番号: 100004

電話: +86-10-6590-9250、FAX: +86-10-6590-9260

\*\*\*ニュースレターに関するお問い合わせは、こちらまで\*\*\*

編集担当: shenxiaojing.cn@jica.go.jp

皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

## 日中韓 市民社会フォーラム

### ◇NGO-JICAジャパンデスク

JICA中国事務所は、2004年からNGO-JICAジャパンデスクを設置し、必要な情報提供等を通じて、中国で活動する本邦NGOの活動を支援するとともに、中国国内のNGOとの関係を構築・強化しながら、草の根技術協力事業をはじめとするJICA事業とNGOとの連携促進を図っています。

これまでにNGO間の交流促進を目的とした連絡交流会を6回行っているほか、過去3回に亘って、日中NGOの連携、障がい者支援、環境教育をテーマとしたシンポジウムを開催し、日中のNGOの交流機会を提供してきました。これらの交流をきっかけとして、「河北省における自閉症児教育教員養成支援プロジェクト」や「視学障がい者音声情報提供技術指導事業」等、草の根技術協力事業の実施が実現しているほか、環境教育分野ではJICAボランティア事業との連携が予定されています。

### ◇「2012日中韓市民社会フォーラム」

8月22日～23日、北京において、「2012日中韓市民社会フォーラム」が開催されました。これは、ボランティア活動国際研修会（JIVRI・日本）、中国国際民間組織合作促進会（CANGO・中国） コリア・ボランティア・フォーラム（KVF・韓国）が共催するもので、今回が3回目となります。今回はJICAも主催者として本フォーラムに携わりました。各国から、NGOやNPOの代表はもちろん、政府機関の代表者や、研究者、企業関係者等、約120人が一堂に会し、東アジアの市民社会・NGO活動の現状に関する情報共有や意見交換しました。

全体会議では、JICA中国事務所中川所長、中国民政部民間組織管理局の李勇副局長等が挨拶をした後、日中韓各国の代表者から、自国のボランティア活動の理念や発展経緯や現状が紹介されました。義務教育の一環として半ば強制的にボランティアを経験する韓国と、自発性を尊重する日本、その間に位置する中国など、各国におけるボランティアの位置づけとその相違は参加者の興味をひきました。また、3ヶ国が共通して直面している高齢化の問題は、分科会のテーマの一つとして取り上げられ、老人介護サービスを提供するNGOが、現場での経験を踏まえた意見交換を行いました。このほか、北京で活動する知的障がい者を支援するNGO等を訪問し、現場を踏まえた相互理解が進められました。

同フォーラムは東アジア市民社会の発展に関する情報収集やネットワーク化、日中韓のNGO活動の実状やニーズ等を確認するプラットフォームとしての機能が期待されています。東アジア地域における相互依存はますます深まっており、日中韓の市民社会の交流と相互協力のメカニズムを構築することは大きな意義があると言えます。対話や交流を通じて信頼関係を深めながら、市民社会の建設と発展を促進し、NGO間の実質的な協力が繋がって行くことが望まれます。

環境問題や、災害対策、高齢化等、多くの解決すべき課題は、政府だけではなく、国際機関やNGO、自治体や大学研究機関等が協力して対応して行くことが重要です。共通の課題については、JICA事業との連携可能性を探るなど、今後ともNGOとの情報交換を進めて行きたいと考えています。

(周迎)



全体会議



分科会



北京で活動する草の根NGOの現場を訪問

#### ■ JICA中国事務所

##### NGO-JICAジャパンデスク

<http://www.jica.go.jp/china/office/about/ngodesk/index.html>

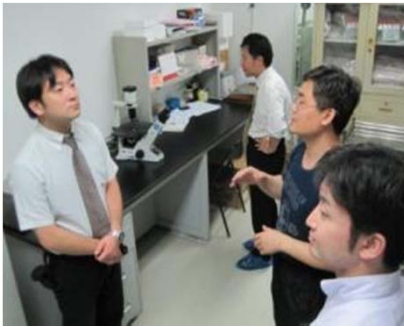
#### ■ 中国国際民間組織合作促進会

##### (CANGO) (中国語)

[http://www.cango.org/newweb/Shownews\\_page.asp?ArticleID=1572](http://www.cango.org/newweb/Shownews_page.asp?ArticleID=1572)

## 予防接種行政にまつわる現状と展望を共有

～「日中免疫計画戦略セミナー」を開催～



中国疾病予防コントロールセンター

JICAは、8月15日～16日、中国衛生部との共催で「日中免疫計画戦略セミナー」を開催しました。JICAは今年3月、予防接種事業、結核対策、健康危機管理をテーマとして、「国家級公衆衛生政策計画管理プロジェクト」を開始し、今回のセミナーはこのプロジェクトの一環で、全国31省・市・自治区から、予防接種事業の責任者など約100名が集結しました。

セミナーでは予防接種法の体系や、健康被害救済制度（ワクチンによる副反応発生時の補償）、リスクコミュニケーション（国民やメディアに対する適切な情報発信の方法）等に関する行政の取り組みや、日中両国が属するWHO西太平洋地域の共通課題であるポリオや麻疹対策に関して、日中双方が現状と今後の展望を発表しました。

中国側にとっては審査プロセスや認定基準等、日本のきめ細かな健康被害救済制度、日本側にとっては中国における予防接種記録の電子化の試みなど、互いに参考となる情報交換を行う機会となりました。また、日本ではこの9月から、ポリオが経口生ワクチンから不活化ワクチンへ移行されることとなったところですが、昨年、新疆ウイグル自治区でポリオのアウトブレイクを経験した中国においても、係る状況を踏まえ不活化ワクチンへの移行を検討していることから、移行準備・移行期・移行後の日本の経験に高い関心が寄せられています。

感染症は日中双方が影響し合う国際的な課題です。日中間で相互に学び合える共通項を見出しながらより効果的に事業を実施していきます。

(小田遼太郎)

### ■国家級公衆衛生政策計画管理プロジェクト

<http://gwweb.jica.go.jp/km/ProjectView.nsf/11964ab4b26187f649256bf300087d03/3c806a852df0b76349257a320079d298?OpenDocument>

## 食品廃棄物の循環利用について議論

～都市廃棄物循環利用セミナーを開催～



JICAは、9月3日、北京において、都市廃棄物、特に食品廃棄物の循環利用をテーマに「都市廃棄物循環利用セミナー」を開催しました。セミナーには国家発展改革委員会馬栄副巡視員、JICA地球環境部不破雅実部長、日本国大使館青戸直哉参事官をはじめ、日中の政府機関、企業、NGO、大学、メディア関係者等、約130名が参加しました。

JICAは、国家発展改革委員会とともに、2010年10月から「都市廃棄物循環利用推進プロジェクト」を実施しており、本セミナーは同プロジェクトの一環として開催しました。今回のセミナーはプロジェクト開始から約1年半の中間成果を報告するとともに、日中の政府機関、大学、企業、NGOから、同分野における最新の取り組みが紹介されました。

特に近年、社会問題として関心が高まっている食品廃棄物については、様々な立場から発表が行われ、JICAが西寧において実施している社区をターゲットとした家庭系生ごみの再利用に向けた調査や、日中のNGOや企業の最新の取り組みが紹介されました。また、上智大学柳下正治教授は講演の中で、現在中国は食品廃棄物の取り扱いの政策的判断という分岐点を迎えていることを指摘し、中国の食習慣、気象条件、消費者の食の安全に対する考え方などを総合的に考慮し、適切な政策を採用することの重要性を述べました。JICAは今後も、本プロジェクトにおける日中間の政策研究を通じ、食品廃棄物の取り扱いを含む中国の廃棄物政策へのアドバイスを行っていきます。

(高島亜紗)

### ■都市廃棄物循環利用推進プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/china/007/index.html>

## 四川大地震で崩壊した山林の再生に挑む

### ～森林植生復旧に関するシンポジウムを開催～



#### ■ 四川省震災後森林植生復旧計画プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/china/activities/project/26.html>

#### ■ 関連記事：「日本の治山技術で大震災から復興を支援」

[http://www.jica.go.jp/topics/2011/20100509\\_01.html](http://www.jica.go.jp/topics/2011/20100509_01.html)

2008年5月に発生した四川大地震は東京都の面積の1.5倍（33万ha）の山林に被害を与え、山肌が露出した被災地は、現在でも降雨のたびに地肌が削られ、土砂の堆積による家屋・生活道路の埋没、山腹崩壊による土石流等、慢性的な被害を住民は受けています。

森林の減少と自然災害は、中国に限った話ではありません。江戸時代の日本では、人口の増加に伴って山林が伐採され、人々は、降雨の度に災害に苦しめられてきました。山林の再生を通じて、災害を軽減し、生活環境の保全を図る「治山」は、日本が長い時間をかけて経験とノウハウを蓄積してきた技術です。JICAは、2010年から実施している「四川省震災後森林植生復旧計画プロジェクト」を通じ、日本が世界に誇る「治山」の技術を用いて、四川大地震の被災地における森林回復に取り組んでいます。

JICAは、8月21日、北京林業大学において、プロジェクト成果の発信と治山技術の更なる普及を目的に、荒廃地における森林植生復旧に関するシンポジウムを開催しました。中国国家林業局、北京林業大学関係者、東京大学太田猛彦名誉教授など政府・学術機関、民間企業、NGOなど、日中合わせて約200名が参加し、四川大地震におけるJICAの取り組みや他地域での経験等が発表され、自然災害の痛みを共有する両国が、今後も連携していくことの重要性を確認しました。

(林憲二)

## 日本の競争政策・独禁法の概要を学ぶ

### ～「独禁法立法及び執行プロジェクト」訪日研修実施～



#### ■ 商務部独禁局ウェブサイト

(今回の訪日研修が紹介されました)

<http://fldj.mofcom.gov.cn/aarticle/xxfb/201209/20120908325372.html?4026834517=3582031146>

JICAは、8月19日～29日、「独占禁止法立法及び執行プロジェクト」の第1回訪日研修を実施しました。国务院独禁委員会の12機関から、商務部独禁局長を団長とする14名が参加、6名が局長級以上というハイレベルなメンバーが日本を訪問しました。

日本の公正取引委員会、同委員会北海道事務所、消費者庁、大学等の関連機関から講師を招き、日本の競争政策や独禁法の概要、独禁法違反事件審査の実務、消費者保護と独禁法との関係、公正取引委員会地方事務所の役割等を説明しました。研修参加者は、競争の観点を組み込んだ産業政策事前評価の手法、市場シェア集中度の調査手法、行政独占・官制談合への対応等に対し、特に強い関心を示し

8月23日にJICA、経済団体連合会、公正取引委員会が共催したセミナーでは、中国側からも、中国の競争政策及び知財政策を紹介しました。このセミナーには日本企業から約180名が参加、中国の商務部、工商総局、知識産権局の幹部と直接対話をする貴重な機会となりました。参加者からは、特に中国の企業結合審査に関して、そのポイントや事案審査情報の公開、申請手続きの簡素化・迅速化への質問が寄せられました。

中国では、独占禁止法の施行から4年が経過し、商務部をはじめとする独禁法執行機関は、法執行の透明性、迅速性、独立性の改善のため、他国の事例を参考にしながら、各種ガイドラインの作成と法執行能力の向上に努めています。JICAは、本プロジェクトを通じて、中国の独禁法執行機関と日本企業とのコミュニケーションも促進しながら、中国の独禁法執行能力の向上に協力していきます。

(張苑)

## 介護関連企業とJICAボランティアの意見交換会



### ■ 中国におけるJICAボランティア事業

<http://www.jica.go.jp/china/activities/volunteer/index.html>

8月23日、中国各地で作業療法士や理学療養士として活動中のボランティア隊員12名が、中国で事業展開しているリハビリ・介護関連の日本企業6社及び米系医療機関と意見交換を行いました。これは中国各地で活動するJICAボランティアが北京に集まった機会を捉えて実施したものです。

企業側からは、車いすメーカーや、医療機関、リハビリ用品メーカー、車いすの製造・寄付・修理を行うNPOを支援している企業等、5社から発表がありました。例えば、車いすメーカーからは、中国における車いすの需給状況や、車いすを適切に選定する人材の不足、体に合わない車いすを利用した場合の身体に及ぼす影響等の課題について説明がありました。

ボランティア隊員からは各配属先における状況を報告しました。大橋加奈隊員（済南市）は、多くの院内介助者は「力を使わない介護技術」に対する知識の不足によって、ベッドと車いすの間の介護者の移乗介護を力任せに行い、腰痛を患っていること、吉田太樹隊員（無錫市）は、多くの車いすが故障したまま利用されている状況、佐藤俊之隊員（内モンゴル自治区）は、地方の医療機関における福祉機器の利用状況を説明しました。

現場の状況に精通したJICAボランティアと、中国でビジネスを展開する企業との連携は、国際協力及びビジネス双方の促進に有益であると言えます。今回、企業側から、各隊員の配属先への訪問や物品提供のアレンジ、セミナーの共同開催等のアイデアが提案されましたが、今後も企業との具体的な連携を図りながら中国への協力を実施していきます。

（青木信彦）

## 中国若手行政官35名が日本へ出発



JICAが運営委員会のメンバーとして支援する「中国若手行政官長期育成支援事業」は中国の中央政府及び地方政府の若手行政官を対象とする留学生受入れ事業です。本事業による今年度の留学生合計35名が、8月に、北京から日本留学へと旅立ちました。出発に先立ち、8月2日及び8月21日、壮行会が開催され、日本大使館の貝塚正彰公使、岩本桂一参事官、商務部国際経貿関係司の康炳建処長、JICA周妍所長代理が現地運営委員会を代表して、それぞれ激励の言葉を述べました。

35名の留学生は、11の大学（筑波大学、立命館アジア太平洋大学、広島大学、名古屋大学、九州大学、国際大学、一橋大学、慶応大学、早稲田大学、京都大学、政策研究大学院大学）の大学院において、法律、公共政策、経営、経済、国際関係を学びます。中国の未来を担う若手行政官が、日本の経験や理論を学び、その経験を活かして中国の一層の発展に貢献するとともに、日中両国間の架け橋として両国の理解の増進、協力関係の強化に大きな役割を果たすことが期待されています。

（李瑾）

## JICA医療分野帰国研修員同窓会による国際学術セミナー



JICA医療分野帰国研修員同窓会は、8月27日、北京において、2012年度第2回国際学術セミナーを日中国交正常化40周年記念行事として開催し、医療従事者約50名が参加しました。

セミナーでは、日本外科学会理事長で東京大学大学院教授の国土典宏氏と東京大学医学部附属病院の坂本良弘講師を招き、それぞれ「肝臓細胞外科の標準化治療」、「胆道悪性腫瘍の臨床治療」と題した学術講演が行われました。質疑応答も行われ、参加者は同分野における理解を深めました。

この講演は、遠隔教育システムを通じて陝西省の2つの病院にリアルタイムで配信され、地方の医療の技術向上に資するものとなりました。

（李瑾）

## 「日中農産物品質安全における経験と教訓」に関する講演会



JICAは、8月23日、中国共産党中央党校経済学部の徐祥臨教授を講師に招き、「日中農産物品質安全における経験と教訓」をテーマとした講演会を開催し、JICAや日本大使館等の関係者が参加しました。

中国では、ここ数年、食品の安全への不安を感じさせる出来事が度々起こったことから、国民の関心が高く、中国政府が直面する重要な課題となっています。徐教授は、農産物の品質安全を巡る日中の経験と教訓から、中国の農産物生産の現状と課題について研究成果を発表し、中国が現在抱えている課題を解決するためには、日本の農業協同組合の経験を参考にしながら、農産物生産の組織化と基準化が必要であるとの提言が寄せられました。今回の講演会は、当該分野の課題解決に向けた日中協力の可能性を検討する上で有意義なものとなりました。

(周妍)

## 「スーパー夏祭り in 北京 2012」に参加



JICAは、9月1日～2日にかけて北京で行われた「スーパー夏祭りin北京2012」（「日中国民交流友好年」実行委員会等が主催）に於いてPRブースを出展し、北京市内におけるODA事業を中心に、JICAの取り組みを紹介しました。JICAブースの来場者のうち、約250名（約9割が中国人）が、JICAが企画したODAに関するクイズに参加しました。クイズでは、日中友好病院に関する問題の正答率が高く、北京市内において同病院の存在感が高いことを感じさせました。

(可兒希代子)

## CHINA COOL

### 日中エコカー比較

先日、日本に一時帰国をした際、車を借りる機会があったので、試しに電気自動車を借りてみました。借りたのは有名な日本の車種です。いつものようにエンジン…ではなくモーターをかけると音がほとんどしないし、運転を開始してもとても静かなため、違和感がありました。しばらく乗ると、普通の車と同様の乗り心地で、特に電気自動車とは意識せず、むしろ完成度の高さに驚きました。さすが、Made in Japanです。

給油…ではなく、充電にも挑戦しました。移動の道中、近くにあるショッピングセンターの駐車場に、充電ステーションを見つけたので、自分でやってみました。雨が降っていたのですが、感電することもなく（！）、無事に充電できました。充電時間として30分を要しましたが、その間もトイレ行ったり買い物をしたり、楽しく時間を過ごすことができました。日本では、電気自動車をガソリン車と同じように使える時代が近いようです。

ここ中国では、低価格の電気自動車が普及しています。街中にあふれる電動自転車（日本円で2万円～）はもちろん、ちょっとした荷車や小型自動車までが電氣化しています。先日の日経新聞で取り上げられていた「低速EV」もその発展系でしょうか。1万元（約13万円）程度で、2～3人乗りのミニカーが買えるようです。電氣インフラの整った途上国で、ガソリン車より先にこの「低速EV」が普及すれば、環境問題も一挙に解決するかも知れません？！

(那須毅寛)



充電ステーションで充電に挑戦

補足情報：「低速EV」

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK0302L\\_T00C12A900000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK0302L_T00C12A900000/)

## 帰・赴任者紹介

### 長期専門家

帰任	米田 重玄	人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト	2010年9月～2012年9月
赴任	中島 卓也	人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト	2012年9月～2014年9月